

Network

The Japan Society of Archives Institutions Kinki District
Branch Bulletin

全史料協近畿部会会報デジタル版
No.84

2024.8.30 ONLINE ISSN 2433-3204

令和 5 年度 オープンソースのデジタルアーカイブ システム AtoM 実習

入門実習 2023 年（令和 5）9 月 16 日（土）

実践実習 2023 年（令和 5）11 月 25 日（土）

会場：近畿大学東大阪キャンパス

AtoM 入門実習実施報告

辻川敦（全史料協会会長／あまがさきアーカイブズ）

2023 年 9 月 16 日（土曜日）、全史料協近畿部会としては 3 回目となる AtoM 入門実習を実施しました。

この企画は、ICA（国際公文書館会議）が推奨するオープンソースのデジタルアーカイブシステム AtoM（Access to Memory）の実装環境を用意し、データ登録を実際に体験してみる企画です。実装環境の準備と当日の講師を NPO 法人「記録と表現とメディアのための組織」研究員の櫻田和也氏（大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任講師）にお願いし、会場は近畿大学教育部の富岡勝教授にお願いして同大学内の情報処理実習室をご提供いただいています。

この実習プログラムは、部会として 2021 年度に大阪産業労働資料館（エル・ライブラリー）に企画・実施を委託した目録規則等研修企画の一環として開始したものです。今回は、近畿部会会員、部会員以外の全史料協会員（オブザーバー参加）のほか、協力機関であるエル・ライブラリーの研究スタッフや近畿大学の富岡先生など、計 13 人が参加しました。前回前々回も参加された富岡先生と、エル・ライブラリースタッフの谷合佳代子さ

ん・千本沢子さんには、あまがさきアーカイブズの辻川敦・西村豪とともに、初めて参加される方向けのアドバイザーとしての役割も務めていただきました。

3時間のプログラムの前半は、櫻田氏による講義「オープンソースのデジタルアーカイブシステム AtoM 概要説明と操作実習」。アーカイブズの基本定義や、ICA が定めるアーカイブ記述の規格、AtoM の概念と構築プログラムの概要などを説明していただきました。

後半は、情報処理実習室の PC を使用して、事務局としてあまがさきアーカイブズが用意した実習用データ（歴史的公文書及び地方文書の概要目録・件名目録・画像データ）を使って参加者各自が AtoM へのデータ登録を体験しました。

AtoM 実践実習実施報告

辻川敦（全史料協会会長／あまがさきアーカイブズ）

2023年11月25日（土曜日）、オープンソースのデジタルアーカイブシステム AtoM の実践実習を実施しました。今回も講師は大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任講師で特定非営利活動法人「記録と表現とメディアのための組織 (Remo)」の研究者である櫻田和也氏。会場についても従来と同じく、近畿大学教育教職部の富岡勝教授の協力を得て、同大学東大阪キャンパス内の情報処理室をお借りすることができました。

AtoM については、2021年度以来3回にわたり、近畿部会として入門実習を実施してきました。今回は初の実践実習と言うことで、近畿部会会員及びこのプログラムの協力機関であるエル・ライブラリーメンバーからなる計11人の参加者がそれぞれデータを持ち寄り、プログラム上で仮のアーカイブズ機関を立ち上げ、所蔵資料情報の登録を行いました。

入門とは異なり、実際に自身が登録したいデータを目録構造を考えながら入力していく作業には独特のむずかしさがある一方で、非常にエキサイティングであり、あっという間に時間が過ぎる感じでした。実施の結果、各参加者へのシステム上の権限付与をどうすればよいのか、それによってどういう作業が可能となり何が制約されるのか、入力作業時の AtoM の予想外の挙動にどう対応するのかなど、多人数参加の実践体験を通じてはじめてあきらかとなる課題も多くありました。今後、こういった課題を講師の櫻田氏を中心に検討協議し、より実践的な作業方式を作っていきたいと考えています。

AtoM を機関デジタルアーカイブのプログラムとして実装することを想定する場合、画像とテキストデータ（メタデータ）をひとつひとつ手作業で登録していくのではなく、関連付けた形で機械的にアップロードしていく方式をどのようにしていくのか、その簡便な方法の提示・提供が課題になるのではないかという感想を持ちました。

当日の様子については、個人会員の大久保雅央さんによる参加記もあわせてご覧ください。

〔追記〕

実習実施後、実習内容を踏まえて、AtoM が用意しているデータインポート用 CSV データに日本語訳項目名称と手順マニュアルを付したアップロード用データシート「AtoM_Kansai 作製 AtoM アップロード用データシート Ver1.0.xlsx」を作成し、メールグループ AtoM_Kansai にリリースしました。さらにその後櫻田和也氏のアドバイスを得て不具合等を修正し、改訂版「AtoM_Kansai 作製 AtoM アップロード用データシート Ver1.1.xlsx」をリリースしました。メタデータ（目録のテキストデータ）の一括アップロードに加えて、画像データについても別サーバーにアップしてリンクを張るスタイルであれば、このデータシートを使って一括登録が可能です。

使ってみたいという方は、あまがさきアーカイブズ（ama-chiiki-shiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp）までお問い合わせください。データを提供します。

なお、AtoM_Kansai というのは、近畿部会の AtoM 実習参加者を中心とする AtoM に関する情報交換と実装を目指す有志のメールグループです。こちらに参加ご希望の方も、あまがさきアーカイブズの辻川までお問い合わせください。

実習参加記

大久保雅央（元寝屋川市市史編纂課調査員）

2023年11月25日（土）に開催された「オープンソースのデジタルアーカイブシステム AtoMの実践実習」に参加させていただいた。今回の実習は、「基礎研修」または「入門実習」受講者を対象にして開催された。

今回は参加者各員が実習に用いるデータを持参し、システムに入力を行う内容であった。入門実習に参加したのは2022年2月26日なので忘れていたところがほとんどであったが、思い出しながらフォンドーシリーズファイルの各項目の入力と画像ファイルのアップを行った。フォンドは指定せず、シリーズを布達、ファイルを簿冊名、アイテムを件名と仮定した。簿冊単位で画像撮影を行っていたためアイテムの入力は行わなかった。そのうち簿冊の画像をアップした。ただ、簿冊の画像枚数が多かったためすべてアップすることが出来なかった。アイテムの情報を入力し、アイテム単位で画像をアップすればファイル上で簿冊1冊分の画像が表示されるかもしれない。また実習できる場が設けられればいちど試してみたい。

参加した感想は、さきで開催された「基礎研修」第1回講義で、谷合氏が指摘しているように、目録記述の国際標準を知らなくても入力が可能であるが、実習で入力しながら I S

AD (G) などの階層構造の説明があれば、国際標準の理解に役立つものになるだろうと思う。またA t o Mのシステムを反復して操作することができれば、A t o Mの取り扱いを忘れることなく、使用できるのではないだろうか。そして入力した情報の階層や内容を修正しながらより良い内容に改めることができるのではないだろうか。可能であれば、定期的に継続して実習できる場を用意していただきたく、お願いしたい。